

2011年3月22日

北海道開発局長 高松 泰 様
北海道開発局旭川開発建設部長 本 田 幸 一 様

北海道脱ダムをめざす会
下川自然を考える会 会長 千葉永二
サンルダム建設を考える集い 代表 渋谷静男
他 14 団体

第2回サンルダム検討の場の開催に対する抗議と運営に関する要請

まず、貴職に対して、サンルダム検討の場を3月23日に開催することについて、以下に述べる理由から強く抗議するとともに、開催時期の延期を要請します。

現在の日本は、東北関東大震災の惨状を速やかに救援し、復旧することが日本全体の最緊急課題である未曾有の惨状にあります。その状況下で、なぜ今検討の場を開催しなければならないのか、道民・国民の感情を無視したものといわざるを得ません。道内のマスコミ関係者も、道内外の被害の実情や今後の方向について取材に走り回っていて、ダム問題に関心を向ける余裕はほとんどないと思われまふ。そんな中で検討の場を開催するのは、道民の目の届かないところで検討しようとしているとの大きな疑念が生じます。北海道開発局は、今、検討の場を開催するより重要な業務があるのではないかと考えまふ。未曾有の惨状にある現在、被災地の救援は最重要課題であり、開発局の危機管理機能と能力が問われる事態です。

また、北海道知事選挙告示日の前日になぜ開催するのかについても疑問を感じまふ。検討の場の有力メンバーである知事が交替する可能性がある時期に、どうして検討の場が開催されるのか？ 検討の場を23日にどうしても開催しなければならない理由をお答え願いたい。

ところで、貴職が、このように大きな疑念が生じる時期にもかかわらず、検討の場の開催を強行する場合には、いくつかのことを要請せざるをえまふ。

私たちは2月15日付け要望書において、検討の場における検討の進め方と具体的問題点を指摘し、開発局長の回答を求めまふ。開発局長名で回答を求めた私たちの要望に対して、3月4日に、開発局建設部河川計画課から回答がありました。私たちは、この点について貴職に抗議し、回答における責任の所在を明らかにするため、私たちの要望に対して次回から北海道開発局長名でご回答いただくよう強く求めまふ。

3月4日付け回答では、私たちの要望や質問に対していっさい回答することなく、国交省の中間とりまとめの骨子を述べるだけに終始しまふ。何故、具体的な要望や質問内容に関して開発局長が明解に回答できないのか納得できません。回答できないのであればその理由をご説明いただきたく、理由がなければ具体的なご回答をお願いいたしまふ。

以上のような理由から、以下に要請事項を記しまふので、対応をおねがいしまふ。

下記の要望事項1と2については早急に、脱ダムをめざす会の事務局を担当している北海道自然保護協会（〒060-0003 札幌市中央区北3条西11丁目、加森ビル6F、Tel：011-251-5465、FAX：011-211-8465）までご回答願いまふ。検討の場を強行する場合には、要望事項3を必ずと

りあげてください。よろしくお願しいたします。

要請事項

1. 3月23日に予定されているサンルダム第二回検討の場の開催を延期してください。延期できないならば、その理由をお示してください。

2. 北海道開発局長名でご回答をお願いします。

私たちが局長名で回答を要望しているのに、何の断りもなく北海道開発局建設部河川計画課名で回答が示されています。今後は、開発局長名のご回答をお願いいたします。

3. 検討の場開催を強行するならば、下記の事項を検討課題として取り上げてください。

検討課題として沢山の要望がありますが、2時間では多くを論議できないと考え、次の3点を検討課題として取り上げていただきたい。

3.1 天塩川流域の治水対策の重点地域

私たちは前回要望書で以下のことを指摘しました。この点について開発局の説明をしてください。「天塩川の現状流下能力図を見ると、音威子府から美深の間では目標流量からみると流下能力は極めて小さく、より高い確率で水害が起きる可能性を示しています。これらの水域では、サンルダムが完成し洪水を調節しようとしても、その効果はあまりにも少なく、治水対策での重要施策の多くが別にあることを示唆しております。この開発局が作った流下能力図が正しいのであれば、開発局はダム下流域市町村にこの危機的な状況をきちんと説明し、サンルダムでは解決できないことを早急に説明する責務があります。万一これらの地点で水害被害が出た場合、事前に予測できた開発局の責任は逃れることはできません。住民の生命財産を守り、安心安全な治水対策を進めるのであれば、関係住民への現状危険度の説明と避難対策、今後の効果ある事業の実施計画作成の基本は避けて通れません。しかし、流域市町村長や住民はこの事実を知らないのです。今回の天塩川水系河川整備計画では、サンルダム建設を優先したばかりに、肝心の住民の生命財産を守ることが、おろそかになってしまいました。」

3.2 名寄川の目標流量を1,200m³/秒にすることを検討していただきたい。

私たちは、名寄川の過去最大流量が1,115m³/秒であることを根拠に目標流量を1,200 m³/秒とするよう提案しています。菅平と名寄川大橋では過去最大の流量と目標流量はほぼ一致していて、名寄川だけ突出して高い値となっています。目標流量を1,200 m³/秒として、あとは河川改修と堤防強化を行えば、たとえ1,200 m³/秒を超えたとしても、被害は最小に抑えられます。一方サンルダムは、サンルダム流域で開発局が予定したとおりの雨量があった場合のみ有効であり、それ以下ではダムは不要、以上では極めて危険であり、サンルダムが機能する確率は低いのです。

3.3 サクラマス保全の検証方法

開発局はサクラマスの保全を検証すると述べています。しかし、魚道入り口についての小規模な実験が行っているだけで、巨大、長大な魚道、迂回水路がサクラマスの遡上、産卵、稚魚の降下に与える影響の検証方法がいまだに示されていません。まず、検証方法を示してください。